



舞鶴小だより

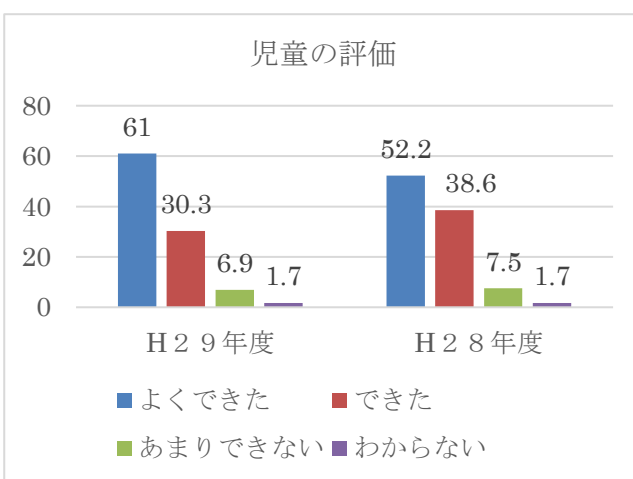
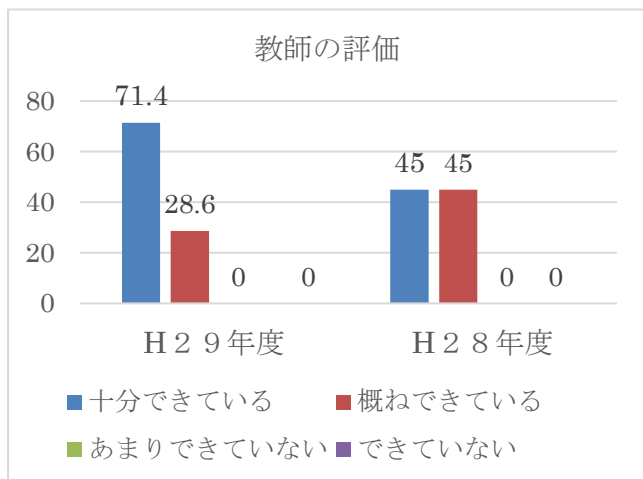
平成30年2月5日号 文責 学校長 相河竜治

“特集” 学校評価アンケート結果

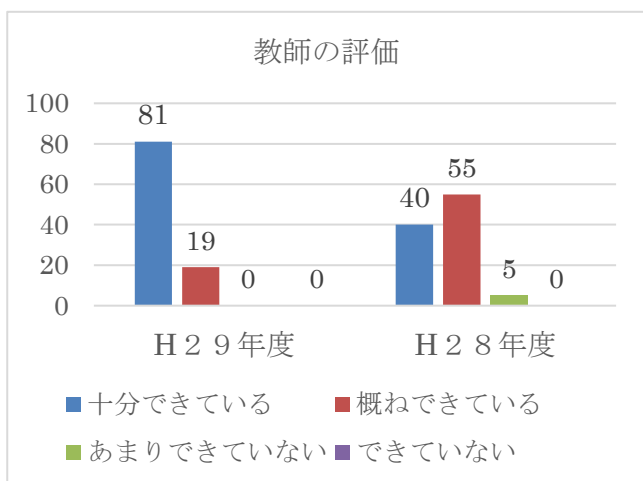
学校評価の評価項目は17ありますが、その中でも今年度の指導重点項目である「学力向上の取組『主体的・対話的で深い学び』の学習」と「地域を巻き込んだあいさつ運動」、「そうじ（「無言清掃」の取組）」を取り上げました。

特集1 学力向上の取組（「主体的・対話的で深い学び」の学習）の推進

先生方には「主体的・対話的で深い学び（特に学び合い）の指導に努めていますか？」という質問を、子ども達に対しては「授業中に友達と話し合うことは多いですか？」という質問をしました。



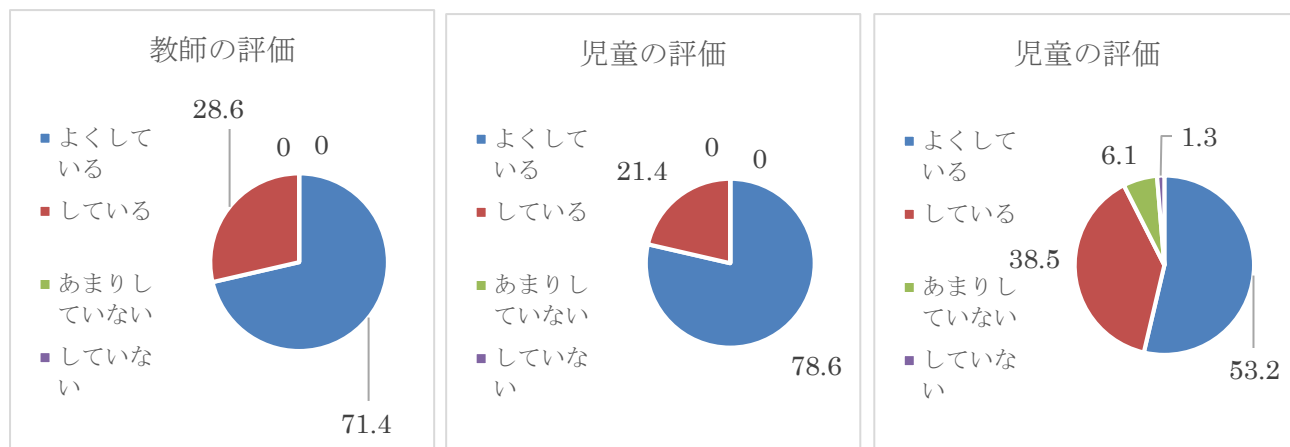
まず注目したいのが、先生方の「主体的・対話的で深い学びの指導が十分にできている」という回答が、平成28年度に比べ平成29年度は大幅に増えている点です。これは学級担任以外の先生の回答を含めているので70%あまりですが、学級担任でいうとほぼ100%です。先生方が学力向上に積極的に取り組んでいることがよくわかります。それに伴って、児童の「授業中に友達と話し合うことはとても多い」との回答が70ポイントほど増えています。これは今年度、校内研究で全校の先生方が協力して「『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業づくり～算数科における問題解決型の学習を通して～」について取り組んだ成果だと思えます。



それに伴って、先生方の「問題解決的な学習を積極的に取り入れ、主体的な学習姿勢を育成するようにする」という質問について、「十分にできている」という回答が平成28年度より平成29年度は倍増しています。グラフはありませんが、先生方が「関心を引き起こし、興味を意欲に変える教材や学習方法を工夫し、学ぶ楽しさを体験するようにする」という質問に対して、「十分にできている」という回答が平成28年度は35.0%に対して平成29年度は85.7%であり、先生方が毎日工夫しながら授業をしていることがよくわかります。

特集2 地域を巻き込んだあいさつ運動の推進

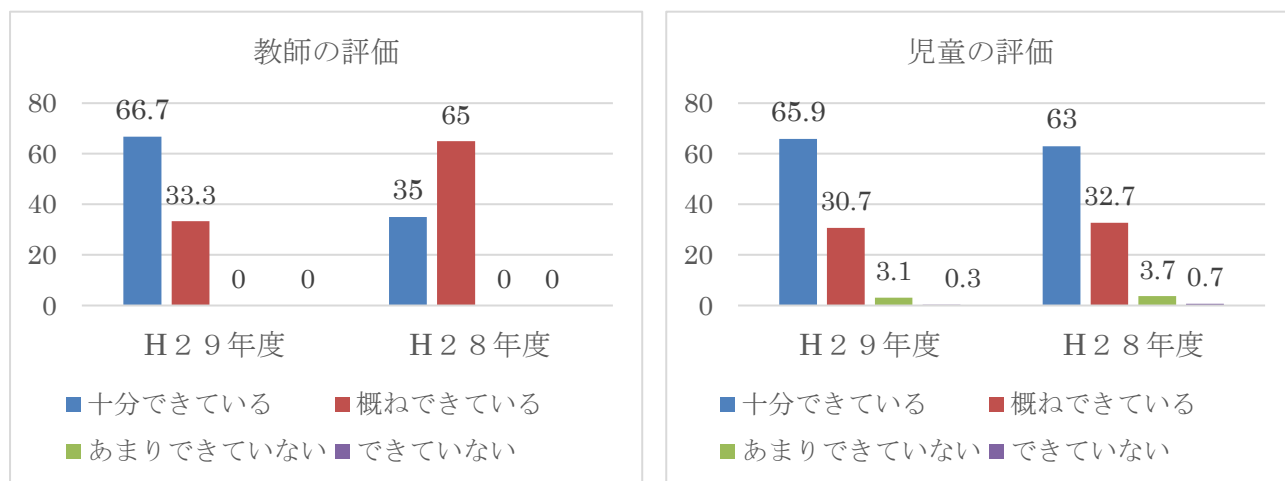
「地域を巻き込んだあいさつ運動」の教師と児童、保護者の評価が次の通りです。



教師と児童が「あいさつをよくしている」と回答している割合がそれぞれ約7割と約8割です。それに対して、保護者のそれは5割あまりです。学校ではあいさつをしているが、家庭や地域ではなかなかあいさつができていない実態があります。そこで、まず、学校でさらにしっかりとあいさつができるようにするというこで、学級ごと様々な取り組みを進めてもらうのですが、全校で重点的に取り組むべきこととして次の3点を決めました。

- ① 教師が率先して、明るく大きな声で子ども達にあいさつする
- ② 児童会のあいさつ運動とも連携して取り組む
- ③ 学年通信・学校だより等を通して家庭との連携を強める

特集3 そうじ（「無言清掃」の取組）の推進



平成29年度は「無言清掃」について、教師と児童の評価がほぼ同じとなりました。しかし、教師の評価は平成28年度に比べて大きく改善しているのに対し、意外に児童の評価がそれほど改善していません。そこで、全校で重点的に次の2点について取り組むことになりました。

- ④ 音楽がかかっている間は清掃の時間ということを徹底させ、その間はだまって清掃する
- ⑤ 無言清掃への取組について、定期的に振り返りをする